極楽寺山の植物たち

ここで紹介する植物は、私たちが花や実を楽しめる時期の順に並べてみました。

春

クロモジ

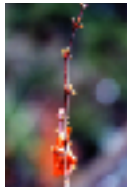
クスノキ科／落葉低木／登山道入口・山頂にあり

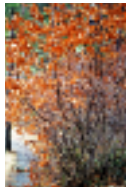
花はシロモジに似て黄色、クロモジは花と葉が同時に出る。枝や葉は香が良く、高級つまようじとして使われている。新枝は黄緑色、2～3年して黒色となる。

▶ひとくち知識P.29

シロモジ　クスノキ科／落葉低木／山頂部にあり

極楽寺山の代表木の一つ。樹皮は新枝も幹も茶色。早春に、まず黄色の花が咲く。続いて新芽が息吹き、葉は深く三裂。初夏にうす緑色の実がつき、熟すと黄色になって裂ける。落葉は遅い。





▶ひとくち知識P.29

ヒメヤシャブシ　カバノキ科／落葉小高木／全山にあり

山地、崩壊地に生える樹木。山肌の砂防用に植え付けられることも多い。実はオオバヤシャブシより小さく3～5個房状につく。実はヤシャダマといって染料に使用する。

オオバヤシャブシ

カバノキ科／落葉高～小高木／全山にあり

3月頃淡黄緑色の雄花が早春を呼ぶように垂れ下り咲く。葉は互生6～12cmと大きく、ふちに鋭い鋸歯あり。果穂は楕円形で1個斜上につく。又の名ハゲシバリ。崖崩れの後や痩せ地によく繁る。実はクリスマスリースに使用したり、染料として使う。

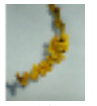
アカシデ　カバノキ科／落葉高木／中腹にあり

葉より早く花が開き、若葉が赤く美しい。雄花は黄褐色で前年枝から垂れ下がる。雌花は本年の枝先につく。花穂は5～6cm。

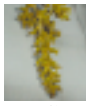
アカメガシワ

トウダイグサ科／落葉高木／登山道入口にあり

雌雄異株。成長が早く、若芽が赤くきれい。実がはじけると飛ぶのでよく繁殖する。典型的陽樹。古くは葉に御飯をのせて食べた。



雄花



雌花

若芽

アセビ

ツツジ科／常緑低木／全山にあり

花がスズランの様で可愛い。有毒植物。馬が食べると苦しむので、この木は馬酔木と書く。花には白と赤っぽいのと二種類ある。

実

▶ひとくち知識P.36

ネジキ　ツツジ科／落葉低木／全山にあり

日当たりの良い所に多く、アセビとよく似た花をつける。樹皮がねじれている。冬場にこの木をにぎると温かいのでホッとすることがある。別名サルの手温め。春先に伸びる若枝は赤くキツネノヌリバシともいう。

▶ひとくち知識P.36

セトウチウンゼンツツジ

ツツジ科／半落葉低木／中腹にあり

4月下旬～5月上旬に白い花が咲き、葉も花も小さいツツジ。登山道中腹に群落がある。

旧名シロバナウンゼンツツジ。

▶ひとくち知識P.36

バイカツツジ

ツツジ科／落葉低木／中腹にあり

4月下旬～5月上旬に2cm位の白い花をつけ、花弁の中ほどの赤い斑点が梅のようである。

▶ひとくち知識P.36

コバノミツバツツジ

ツツジ科／落葉低木／全山にあり

日当たりの良い所で紅紫色の花が、サクラ（ソメイヨシノ）と同じ頃咲く。

暖かい地方の代表的なツツジ。

▶ひとくち知識P.36

ウスギヨウラク

ツツジ科／落葉低木／中腹より上にあり

5月初旬、薄黄色のつり鐘状の可憐な花が輪状に咲く。

▶ひとくち知識P.36

実

紅葉

ウワミズザクラ

バラ科／落葉高木／登山口と中腹にあり

4月下旬、花は白色で穂状に咲く。葉は桜に似ていて、葉の付き方がイラストのようにおもしろい。

実は9月頃赤黒くなり小鳥や動物が好むので人の目につきにくい。

ヤマザクラ

バラ科／落葉高木／登山口にあり

日本古来の桜。花と葉が同時に出て、若葉が赤褐色で次第に濃い緑に変わっていく。桜の中で樹齢が一番長く他の山で200年位のものもある。

ねがわくは
花のもとにて春死なむその
如月の望月のころ
西行法師

タムシバ

モクレン科／落葉中高木／中腹にあり

早春に遠くから見ると山を白く飾る。登山中には目につきにくいが足元にたくさん花びらが落ちている。コブシとよく間違われる。花の下に一葉がないのがタムシバ。コブシは公園木で蛇の池周辺にある。

▶ひとくち知識P.32

ザイフリボク

バラ科／落葉小高木／登山道入口にあり

早春、白いうぶ毛をまとった新芽が息吹き、続いて白い花がハタキのように咲く。遠くから見ると葉も花も全部白く見える。花が終わった頃より葉はだんだん緑色になる。秋に黒紫色の実がつく。

ハイノキ

ハイノキ科／常緑小高木／中腹～山頂にあり

おしべの長い白い花が雪の様に咲く。秋に黒い実がつく。この木の灰は染色の媒染剤になる。山頂付近には特に多い。

ヒメコウゾ

クワ科／落葉低木／登山口にあり

和紙の原料にもなる。葉はやや大きく2～3裂する。雄花は赤く雌花は白で実は橙色でイチゴのよう。実は美味しいけれど、いつまでも口の中でいがらっぽい毛が残る。

花

キブシ　キブシ科／落葉低木／山頂にあり

雌雄異株。淡黄色の花カンザシのような花が鈴なりに枝いっぱいにぶら下り、早春の山でよく目立つ。五倍子（昔の草木染めの原料）の代用として黒色の染料にするのでこの名がある。生け花の材料にもよく使う。

花

シュンラン

ラン科／多年草／中腹にあり

ラン科で一番多く自生する。一本の茎に淡黄緑色のラン独特の形をした花を1個つける。松林を好む。花はお茶や天ぷら、酢物として食する地方もある。

サルトリイバラ　ユリ科／落葉つる性木本／全山にあり

丸い葉は柏餅を作るのに使う。日当たりの良い所に多い。秋から冬の真っ赤な実は大変野趣を誘う。トゲのあるツルはクリスマスリースに良く使う。別名サンキライ又はカタラ。

花

実

シキミ

モクレン科／常緑小高木／登山口～山頂にあり

有毒植物。葉は光沢、香りがあり、花はクリーム色。種子はハッカクと間違え易い。仏様、お墓にお供えする。名は「悪しき実」に由来する。別名ウジゴロシ。

実

コシアブラ　ウコギ科／落葉高木／登山口～山頂にあり

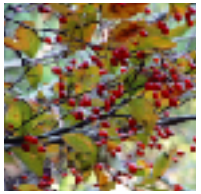
葉は5枚の掌状複葉で幹は直立する。新芽の時は天ぷら、ごま和え等で食べられる。 経木帽子（キョウギボウシ）の材料。俗名シロギ、バッカンギともいう。

実

カマツカ

バラ科／落葉小高木／中腹～頂上にあり

4月下旬頃小さな白い梅鉢状の花が集まって咲く。秋の赤い実は鳥の大好物。特に蛇の池周辺に大木がある。材は硬くて丈夫なので鎌の柄や牛の鼻ぐりに使っていた。別名ウシゴロシ。



イヌブナ

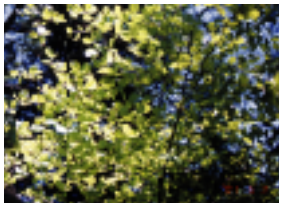
ブナ科／落葉高木／中腹よりやや上にあり

新緑が美しい。花は小さいので気付きにくい。ブナに似ているが葉には毛が多く樹皮が黒褐色で別名黒ブナともいう。

ウラジロノキ

バラ科／落葉高木／中腹より上

5月～6月初旬に白い花をつけ、若葉から枯葉になっても葉裏が白い。秋に1cm位のリンゴのような実をつける。口にするとあまりおいしいものではない。



サンショウ

ミカン科／落葉低木／中腹にあり

雌雄異株。対生するトゲがある。葉も実も香辛料で新芽の頃は特に重宝される。幼木は足元に処々生えている。

健胃薬。

トゲが互生するのはイヌザンショウである。

クサイチゴ

バラ科／落葉小低木／登山道入口と中腹にあり

葉がバラのような形をし、草の様に柔らかな感じの木で白い大きな花をつける。実は赤く大きくて美味。

▶ ひとくち知識P.37

花

実

ビロードイチゴ

バラ科／落葉低木／中腹にあり

葉には無数の毛があり、柔らかいビロードの感触。葉裏の主脈にトゲがあり、幹にもトゲが多い。実は朱色で美味。

▶ ひとくち知識P.37

顕微鏡で観てみました

写真1.ビロードイチゴ

写真3.葉の裏の映像（走査電子顕微鏡）

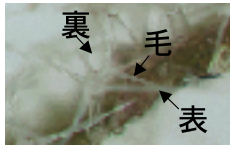


写真2.ビロードイチゴの断面（電子顕微鏡）

ビロードイチゴの葉の裏は触ってみればわかりますが、スベスベし、要するにビロード生地のような触り心地なのです。このスベスベ感の原因を究明するために、電子顕微鏡を用いて葉の裏を拡大してのぞいてみました。その結果、写真2.3.の映像を観ることができました。ビロードイチゴの葉の裏は細かな白く透き通った毛が密生しているのです。それによりいつまで触っていても飽きない感触を得られることがわかりました。

（写真2.　300倍　　写真3.　140倍）

ナガバモミジイチゴ

バラ科／落葉小低木／登山口～山頂にかけて

実

葉にモミジのような切れ込みがありトゲが多く、枝の葉毎にオレンジ色の実をつける。実は美味。

▶ ひとくち知識P.37

スノキ

ツツジ科／落葉低木／全山にあり

新緑がきれいで、紅葉も美しく生花にもよく使われる。花は下向きにつき、液果は黒紫色に熟す。花も実も酸っぱいが食べられる。

花

▶ ひとくち知識P.36

アクシバ

ツツジ科／落葉小低木／登山道入口付近にあり

初夏淡紅白色のかわいい花が咲く。4深裂して裂片は外側に巻き、おしべが花冠より長くつき出ている。赤い球形の実が秋に熟すが、実は食べない方がよい。

花

実

ノイバラ

バラ科／落葉低木／登山口・山頂にあり

実

よく枝分かれし、トゲがある。2cm位の白い花を沢山つけ良い香りがする。秋～冬、可愛い赤い実をつけ、生花の材料によく使う。

ブタナ

キク科／多年草／頂上にあり

帰化植物。日当たりを好み、春、蛇の池の下の広場一面を黄色く敷きつめる。タンポポに似ているからタンポポモドキ、フタマタタンポポともいう。フランスで「ブタのサラダ」と呼ばれる。

チゴユリ

ユリ科／多年草／中腹～山頂にあり

実

林床下に生え10cmくらいの茎の先に1つの可憐な白い花を付け、実は夏に青黒く熟す。

ササバギンラン

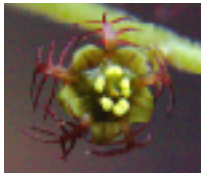
ラン科／多年草／山頂にあり

木陰に生え、高さ40cm位になる。白い花を数個付け、葉の形が笹に似ている。

チャルメルソウ

ユキノシタ科／多年草／登山道入口近くの水辺にあり

湿地を好み、花茎に赤っぽい小さなチャルメラに似た可憐な花を付ける。葉は毛羽だった美しい葉。



花

夏

クマノミズキ

ミズキ科／落葉高木／登山道入口

初夏、山陽道上り線、高架の下に、クリーム色の平たい花が満開で迎えてくれる。晩夏、果柄が赤く、青黒い実をつける。

実

コアジサイ

ユキノシタ科／落葉低木／中腹～山頂にあり

林下で、花には装飾花がなく、青紫色の小さな花が固まって咲く。

コツクバネウツギ

スイカズラ科／落葉低木／中腹にあり

5～6月枝の先に黄白色ラッパ状の花を一ケ所から対につけ、萼片2個が特徴。ツクバネウツギは萼片5個。

萼片

コガクウツギ

ユキノシタ科／落葉小低木／登山口～中腹にあり

5～7月頃、花のかたまりの一つに対して白い装飾花（3枚）がひらひらしてさわやかに目につく。木肌に艶があり、コンテリギともいう。

ノササゲ

マメ科／つる性多年草／登山道入口

小葉は裏面が白色をおびる。葉の脇から淡黄色の蝶形の花を沢山つける。実は淡紫色のさやがはじけ黒い豆が出る。別名キツネササゲ。よく似たものにヤブツルアズキもある。

ミソナオシ マメ科／落葉小低木／登山道入口

3枚の小葉を持つ草状の低木。実はたくさんの毛で衣服につく。昔、悪くなった味噌に葉を入れると味が回復したそうだ。珍しい植物。

花

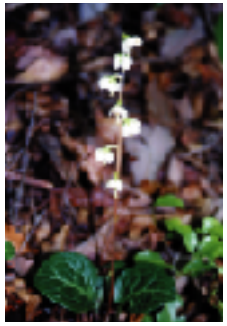
実

ギンリョウソウ

イチヤクソウ科／腐性植物／八合目～山頂、遊歩道にあり

6～9月頃うす暗い林の中に生え、葉緑素を持たないため、葉も花も実も白く、竜の頭のような花。別名ユウレイタケ。

実



イチヤクソウ

イチヤクソウ科／多年草／中腹～山頂にあり

数枚の葉が根元に集まってつき、15～20cmくらいの花茎を出し、3～10個の白い花を5～6月につける。薬効があるといわれ、この名がついた。

マタタビ マタタビ科／つる性落葉木本／中腹まで

花が葉の裏につくため、虫の目にとまらないから葉を白くして虫を呼ぶ。花の頃（夏）スギ等の大木に絡まったのは遠くからでも良く目立つ。虫えいの実は薬効が多い。その昔、疲れた旅人がこの実を食べて、また旅に出られたのでこの名がついた。猫が好む。

虫えい

ヘクソカズラ アカネ科／つる性多年草／全山にあり

ハート型の葉が対生につく。葉・茎・花はいやなにおいがするのでこの名がついた。花の中央が赤いからヤイトバナともいう。晩秋の茶黄色の小さな実はドライフラワーにも利用される。

テイカカズラ

キョウチクトウ科／常緑つる性木本／登山道入口～中腹にあり

葉は対生し光沢がある。梅雨入りの頃、風車のような小花は純白で香りがよい。足元ばかり見て登山している時、この香りでふと見上げると枯木や樹々にからみついて繁茂している。

実

イワガラミ

ユキノシタ科／落葉つる性木本／中腹にあり

気根を出し、岩や木にうまくはいのぼる。中腹の赤カシに巻き付いて大木をとりこにしている。ツルアジサイに似ている。白い装飾花弁が一枚のがイワガラミ、4枚がツルアジサイ。

リョウブ

リョウブ科／落葉高木／尾根、日当たりのよいところにあり

木肌に特徴があり、花は白く細かいブラシ状に咲く。新芽を、戦時中ご飯の増量材として食べた。「令法」と書く。ジョウボともいう。

エゴノキ エゴノキ科／落葉高木／全山にあり

実にはサポニンが含まれていて砕いて、水で洗うと石鹸のように泡が立つ。それは麻酔効果がある。日当たりの良い所を好み、5月頃、ぶら下った白い花が見られる。

実

オオバノトンボソウ

ラン科／多年草／中腹～山頂にあり

林下に生える。一年目は葉が一枚で花がつかない。葉数が増えないと花をつけない。葉は下の2～3枚が大きく、花は初夏に咲き、淡緑色でトンボに似ている。

ノギラン

ユリ科／多年草／登山口・頂上

地面にロゼット状になった根生葉の間から20～40cmの花茎を出し、先端にブラシ状に黄茶色の粘質性のある花をつける。花が終わっても花殻は落ちない。

ミソハギ

ミソハギ科／多年草／蛇の池周辺にあり

葉は対生につき、茎は直立して1m位になる。花は穂状に紅紫色で、夏に湿地で目につく花である。この花を盆に仏前花として供えることから盆花ともいう。

サワギキョウ

キキョウ科／多年草／蛇の池周辺にあり

有毒。湿地植物。池の周辺に70～100cmの1本の茎に濃い紫の花をつけ、印象深い花。

ヒヨドリバナ

キク科／多年草／登山口と山頂にあり

秋の七草のフジバカマの代用にする。葉はよくウイルス病にかかり斑入りになることが多い。ヒヨドリの鳴く頃花が咲くためこの名がついた。

タケニグサ ケシ科／多年草／登山道入口の荒れ地にあり

有毒植物。要注意。大丈の草である。荒地を好み面白い形の葉をして裏が白い。若葉を折るとオレンジ色の汁が出る。夏に白い花をたくさんつける。竹細工の竹をこれで煮ると柔らかくなるからこの名がついた。また茎が中空なので竹に似ているからという説もある。

花

秋

アキノタムラソウ

シソ科／多年草／登山道と蛇の池周辺

薄紫色の舌状花が輪生する。陽の当たる登山道に見うける。

ヌスビトハギ

マメ科／多年草／登山道入口付近にあり

花はかわいい淡紅色の蝶形花をまばらにつける。実の先端の鉤で人の衣服に良くつく。節果の形が盗人のしのびあしの足跡によく似ているのでこの名がついた。ツクシハギと見比べてみよう。

ツクシハギ

ミヤジマママコナ

ゴマノハグサ科／1年草／登山口～山頂にあり

日当たりの良い山道で見られる。赤紫の花を咲かせ、花の中にご飯粒のようなものがある。

ツリガネニンジン

キキョウ科／多年草／蛇の池周囲湿地にあり

夏～秋にかけて、枝先に釣鐘状の淡紫色の小花が輪生で下向きに咲く。若芽は食用、根は薬用となる。

ヤブタバコ

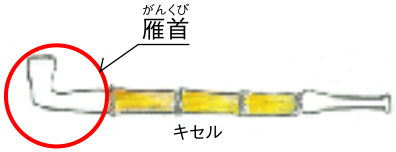
キク科／1～2年草／中腹～山頂

太い茎は途中で伸びるのを止め、Y字状に数本の横枝を出す特徴がある。根生葉が大きく、タバコの葉に似ている。筒状花をつける。

ガンクビソウ

キク科／多年草／中腹～山頂

花は筒状花でヤブタバコの花とよく似ている。花が茎の先で曲っている姿がキセルに似ているのでこの名がある。



花がら

コウヤボウキ（高野箒）

キク科／落葉小低木／登山口～山頂にあり

秋に白い花が咲き、冬には落葉した枝に綿毛状の種をつける。高野山ではこれでホウキを作った。

ツルアリドオシ

アカネ科／常緑多年草／中腹と蛇の池周辺にあり

つる性で足元をはい、初夏に二つの白い花をつけ、一つの赤い実になり、2つの花の跡がついている。これは別名一両ともいう。

▶ひとくち知識P.35

ツリバナ

ニシキギ科／落葉低木／山頂よりやや下

葉は対生。葉の付根から長い花柄を出し白い小さな花をまばらにつける。秋にはじけた実がぶらさがり楽しめる。

コマユミ

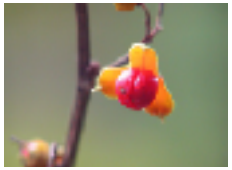
ニシキギ科／落葉低木／中腹にあり

葉は対生で、春、淡黄緑の小さな花をつける。秋、紅葉し、はじけた赤い実はかわいくて2個一対で印象深い。

ツルウメモドキ

ニシキギ科／落葉つる性木本／登山口にあり

雌雄異株。葉は互生で楕円形。秋、黄色の実をつけ、割れると赤くかわいい種子が現れる。生花の材料とする。



ミヤマシキミ

ミカン科／落葉低木／中腹～山頂にあり

雌雄異株。有毒。葉は輪生状、花は春に白く固まって咲く。秋に実は赤く、良い被写体になる。

夏頃の実

冬の実

ウリカエデ

カエデ科／落葉小高木／中腹～山頂にあり

雌雄異株。4～5月枝先に総状花序を出し、淡黄色の小花を7～8個つける。翼花は水平に開き、赤みを帯びてよく目立つ。
種子の部分はあまりふくらまない。葉はカエデの仲間の中で一番小さい。

ウリハダカエデ

カエデ科／落葉高木／中腹にあり

雌雄異株。カエデの中で葉が一番大きく、紅葉はとても美しい。樹皮がマクワウリの模様に似ている。

花

コハウチワカエデ

カエデ科／落葉高木／全山にあり

樹皮はやや滑らかで灰青褐色。葉は全体に有毛。種の翼はほぼ180°に開く。ハウチワカエデより一回り小さい。

カエデの紅葉

ウリハダカエデ

ウリカエデ

イロハモミジ（園芸品種）

コハウチワカエデ

ムベ

アケビ科／常緑つる性木本／全山にあり

冬山でも巻きついた姿はよく目につく。葉は掌状複葉で、厚みがあって艶やか。5～7枚の小葉。

小苗はよく足元に生えている。アケビと同じような実をつけるが裂開しない。果肉は甘い。

ミツバアケビ

アケビ科／落葉つる性木本／全山にあり

葉は3小葉で、春、先端に小さな多数の雄花と、根元に大きな黒紫色の雌花を数個つける。秋には種の多い甘い実をつける。

アオツヅラフジ

ツヅラフジ科／落葉つる性木本／登山口～中腹まで

雌雄異株。掘り割りのような登山道を行くと、両側に細い紐のようなつるが目につく。木根かと思えばこのつるである。花は夏咲き、秋、藍黒色の小粒のブドウのような実をつける。実は1粒で結構という味である。つるが緑なのでこの名前がついた。根は漢方薬になる。籠の材料に使う。

サネカズラ

モクレン科／常緑つる性木本／登山口にあり

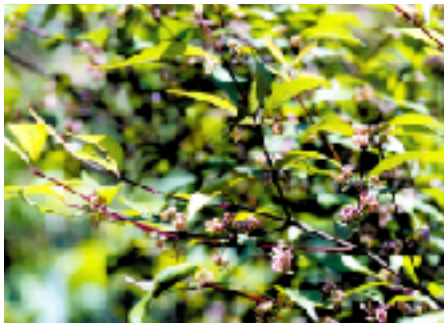
花は8月頃咲く。秋に濃い赤色の果実が手鞠状でぶら下がる。冬の葉は紅葉して美しい。昔、整髪料の代用にした。別名ビナンカズラ。

雄花

ミヤマガマズミ

スイカズラ科／落葉低木／八合目～山頂にあり

葉は対生で裏に毛がある。花は春咲き、一対の葉の先の枝に白い散方花序をつける。実は赤く、染料にもなる。



ムラサキシキブ

クマツヅラ科／落葉低木／中腹部にあり

葉は対生し両面とも無毛。紫色の小花の固まりを多数つけ、実は濃い紫色。園芸種ほど沢山実がつかない。

ヤブムラサキは全体に毛があり実の粒も大きい。

ゴンズイ

ミツバウツギ科／落葉小低木／登山口～中腹にあり

葉は羽状複葉で花は春に咲く。秋、紅葉も美しく実が熟して裂けると内側が赤く、種は艶やかな黒でコントラストがおもしろい。

ネズミモチ

モクセイ科／常緑小高木／中腹にあり

葉は対生で光沢あり。春に白い花をつけ秋黒い実が熟す。登っていると足元にネズミの糞のような実（8mm前後の俵型の黒い実）がたくさん目につく。

ツタウルシ

ウルシ科／落葉つる性木本／中腹～山頂

雌雄異株。5合目位に多い。葉は3小葉で鋸歯がなく、ふれるとひどくかぶれるので注意。茎から木根を出して木や岩にはいのぼる。秋にはいち早く紅葉する。

ヤマウルシ

ウルシ科／落葉小高木／全山にあり

雌雄異種。かぶれるので注意。5月頃黄緑色の小さな房花をつける。羽状複葉で赤い葉柄を枝の上部に集めてつける。全体に毛がある。ヌルデ、ハゼと間違い易い。ウルシとは別の物。

ナツハゼ

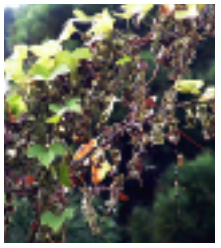
ツツジ科／落葉低木／全山にあり

葉はふちと両面にあらい毛があり、日当たりを好む。夏頃より葉が紅葉して生花に使う。花は枝の先に不揃いに咲き、実は秋に黒紫に熟し、食べるとおいしい。別名山のブルーベリー、カンスボとも呼ばれる。

カエデドコロ

ヤマノイモ科／つる性多年草／登山道入口付近にあり

雌雄異株。つるがヤマノイモとよく似ている葉が3～9裂しカエデの葉に似ている。葉の付け根にトゲがある。実には3翼があり房状に下がる。



春の芽吹き

コナラ ブナ科／落葉高木／全山にあり

樹皮が灰黒色で、縦に不規則な裂け目がある。秋には地味で褐色の紅葉。里山では、一番よく見かけるドングリ。

▶ひとくち知識P.38

椎茸のほだ木。

アベマキ ブナ科／落葉高木／中腹～山頂にあり

樹皮はコルク層が10cmにもなる。葉裏に毛が密生している。秋、この実を見付けると必ず手にしてみたいと思うドングリ。

▶ひとくち知識P.38

雄花

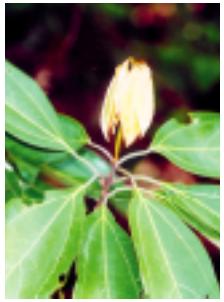
堅果

ヤブニッケイ

クスノキ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

絶のある葉で三行脈が特徴。秋に黒い実をつける。葉を揉むと香りがあるがニッケイとは別物。沿岸部の山に多い。

幼木は登山道によく見られる。


新芽

シロダモ

クスノキ科／常緑中高木／登山口～山頂にあり

雌雄異株。11月頃、花（淡黄）と実（赤）が同時に見られる。ただし実は前年の花が実ったもの。春には、垂れ下がった銀色のベルベットのような新芽が出る。

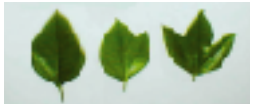
その後3行脈が目立ち、葉裏が白色になる。

別名シロタブ。

冬

カクレミノ ウコギ科／常緑高木／全山にあり

葉は表面光沢があり2～3裂する。若木は5裂するものもあり、古木は丸い一枚葉になる。暖地の山に生え、黒い実を鳥が運ぶのか至る所に苗木程度から小高木がよく目につく。彦一話などに出てくる「天狗の隠れ蓑」に葉が似ている。



▶ひとくち知識P.33

ヒメユズリハ

トウダイグサ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

雌雄異株。葉は枝先に集まって互生し6～12cmの狭長楕円形。若葉が成長してから古い葉が散るのが特徴。ユズリハより葉が小さく大木になる。秋に黒紫色の実をつける。正月飾りに使用する。

リンボク

バラ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

幹は桜に似ていて直立し高木になる。秋に白いブラシ状の花をつける。

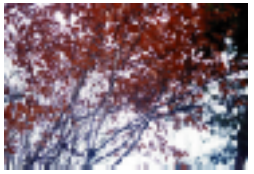
この時期、前年の実がついている。熟すとおいしい。幼木の時、葉にはトゲがありヒイラギガシという。

▶ひとくち知識P.34

ヤマコウバシ

クスノキ科／落葉低木／中腹にあり

雌雄異株。秋、黒い実をつける。冬になっても枯葉をいつまでも落さない。春になって新芽が活動しだすと落葉する。葉や枝に香りがある。



ヤブツバキ

ツバキ科／常緑中高木／全山にあり

日本古来の椿で、赤い花は冬山で心なごむ。

山中にたくさんあり、メジロ、エナガ、ヒヨドリ等が集まる。種から椿油を取る。

フユイチゴ

バラ科／常緑つる性木本／登山口にあり

秋に白い花をつけ、冬、赤い実に熟し美味。トゲは無いが葉裏に毛が多い。

別名寒イチゴ。

▶ひとくち知識P.37

ヤブコウジ

ヤブコウジ科／常緑小低木／全山にあり

木陰に生え登山道脇に処々見られる。7月頃白い花をつけ秋に赤い実をつける。10cm位で

正月の盆栽に植え込むことが多い。十両ともいう。

▶ひとくち知識P.35

ソヨゴ

モチノキ科／常緑高木／全山、特に山頂にあり

雌雄異株。葉の縁が広く波うっているので風が吹くと、葉が触れ合ってカサカサ乾いた音がする。

初夏小さな白い花をつけ、秋から冬の間、柄の長い赤い実をつける。別名フクラシバ。

通年

アラカシ

ブナ科／常緑高木／全山にあり

葉先半分に大きな鋸歯があり、生垣によく使われこの木にはよくウドン粉病がつく。荒々しく堅いからこの名がつく（カタギ＝堅木）。

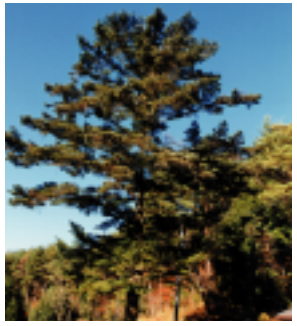
▶ひとくち知識P.38

雄花

アカガシ ブナ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

5合目以上に沢山あり、極楽寺山を代表する木の一つ。寺の境内には老木で県下最大のものがある。葉は鋸歯が無く、波うって柄が長い。材が赤いのでこの名がついた。

▶ひとくち知識P.38



モミ

マツ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

極楽寺山の代表木の一つ。大木でこれだけの群落があるのは珍しい。葉の先端が矢羽のように二つに分かれているのがモミ。分かれていないのがカヤ。

ネズ ヒノキ科／常緑小高木／全山にあり

葉の長さが1～2cmの針のようでネズミをも刺してしまうという所から。別名ネズミサシ、ムロノキ、モロウギ、トショウ（杜松）。万葉集にも歌われている。

吾妹子（わぎもこ）が　見し鞆の浦の
むろの樹は　常世にあれど
見し人そなき

大伴旅人

タブノキ クスノキ科／常緑高木／中腹～山頂にあり

葉は枝先に集まってつき、厚みがあり艶やか。春、黄緑の花をつけ、夏に赤い果柄で黒い実をつける。冬芽が写真のようにかわいい。別名アオガシ。イヌグス。

冬芽

ヒサカキ ツバキ科／常緑低木／全山にあり

雌雄異株。早春5～6mmの白花を枝に密集してつける。においがあるのでこの木とわかる。10～12月黒紫色の実を枝に沢山つける。葉には鋸歯あり。神事、仏花にサカキやシキミの代用として使う。黒い実は動物達の好物。

クロキ

ハイノキ科／常緑高木／全山にあり

葉は艶やかで厚みと光沢があり、新枝には三角の稜がある。春に小さな白い花を沢山つけ、秋、長めの黒い実がなる。

サンヨウアオイ

ウマノスズクサ科／多年草／中腹～山頂にあり

ハート型の美しい葉で、5月頃チョコレート色の花が咲く。県南部に多い。ギフチョウの食草。

コシダ

シダ植物／全山にあり

伊豆半島より西の大平洋側に多い常緑のシダで地下茎を発達させ所々から葉を伸ばす。この葉柄で籠を編んだ。ウラジロより小さいのでコシダ。

シシガシラ

シダ植物／全山にあり

葉を束のように繁らせ獅子のたてがみに似ているからこの名がつく。

サカゲノイノデ

シダ植物／登山道入口にあり

登山口の林の中に大株がある。葉柄の鱗片が逆さに向いてつき、猪の手足の毛のようなシダだからこの名がつく。